



海峽園句集

坤

~5
6661
2止



海の園句集巻下

秋

文月

夕月や秋まの尾結物さへ

立秋

秋さへおはるる長秋の

もりのまはるる長秋の

るるまはるる長秋の

産物もたふすまてはるるそんたの秋
と御持のちるうたふるなりおはせ

——おはせとていふ
たふるにちるうたふる
のちるうたふる

おはせとていふ

秋

病後

御持もたふすまてはるるそんたの秋

御持もたふすまてはるるそんたの秋

杖もたふすまてはるるそんたの秋

ちるうたふるにちるうたふる

ちるうたふるにちるうたふる

ちるうたふるにちるうたふる

ちるうたふるにちるうたふる

ちるうたふるにちるうたふる

一山丹とていふ

御持もたふすまてはるるそんたの秋

初秋

きつ秋也掃ふてくわん
初秋何れ後どの出まわ
ま何秋へよき物まわりの秋
初秋は牛よきわお廿日
秋もまわりの秋もわりの秋

一葉

きつ一葉も秋もわりの秋もわりの秋

ま何れもわりの秋もわりの秋
伏龍れあうもわりの秋もわりの秋

大ち乃 天川

天川

山もわりの秋もわりの秋
けいんやあまもわりの秋もわりの秋
本もわりの秋もわりの秋

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

新結

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

切艸

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

あまのつらき月を越らば玉の
まはらばあまのつらき月を越らば玉の

誦

んわんわん一輪かぶるよわん

一とつみほしを御はせやりのね

うすやうにさしあはれすまふ誦

善村のあまをさるる

あまのあまぬ人なるるよわん

あまのあまぬ

谷原のあまぬ人なるるよわん

田代のあまぬ

あまのあまぬ人なるるよわん

あまのあまぬ

あまのあまぬ人なるるよわん

初嵐

あまのあまぬ

あまのあまぬ人なるるよわん

秋風

あまのあまぬ人なるるよわん

山道や 岩屋のそけを 踏むと
さへ 風を 今にを ねふ 秋の風
秋の 芳り 一庭の あけを ぬき
あけの せわ ちと ぬおろ けな け色
もの ちと ぬあ の ちと ぬあ 秋乃 風
秋乃 風 踏む と ぬあ の ぬあ ぬあ
何と ぬあ の 踏む ぬあ の 踏む ぬあ
秋乃 風 踏む と ぬあ の 踏む ぬあ

り あや ぬあ 踏む 秋乃 風 踏む と
さよ ぬあ の 踏む ぬあ の 踏む
あや ぬあ の 踏む ぬあ の 踏む
伯州 ぬあ の 踏む ぬあ の 踏む
秋乃 風 踏む と ぬあ の 踏む ぬあ

さし ぬあ 踏む と ぬあ の 踏む
みま ぬあ の 踏む ぬあ の 踏む

姉君

仲の

安ら

姉君

入

露

—

船つ

お

—

真中

言

み

月

—

—

—

郊外

志くはゆれはれり入るおあり

春のちりる傍そまへて

あらぬいまわ枯野のあり

ちたそ耐り我他はる

おのちる

しるおれはれり

おのちる

拾桂東行録

古よりよきあはれりおのちる

ちり

ちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちり

拾桂

いちちちちちちちちちち

ちりちりちりちりちりちり

ちりちりちりちりちりちり

いさゝかおのさあをわははるみ
指事あやまよとまらてまはと
いさゝかあもあはあはあはあは
伊那あはあはあはあはあは
いさゝかあもあはあはあはあは

あはあは

いさゝかあもあはあはあはあは
指事を指して伊那あはあは

相南の業者之志強行也津乃舟

角力

子供をそくあはあはあはあは
今とるまのあはあはあはあは

舟也

あはあはあはあはあはあは
あはあはあはあはあはあは
あはあはあはあはあはあは

本権

源あいのくあるく本権垣

女郎也

何んたをそおあまなけし

いねのりあこらあまの

あまのいひあはくま

たてお

あはてゆくあまを

朝教

あま

あまのあまを

あまのあまを

あまのあまを

あまのあまを

あまのあまを

あまのあまを

あまのあまを

あまのあまを

秋

けつろのちかきもあつらひのちかきも
きよけつろのちかきもあつらひのちかきも
きよけつろのちかきもあつらひのちかきも
きよけつろのちかきもあつらひのちかきも
きよけつろのちかきもあつらひのちかきも

春

あつらひのちかきもあつらひのちかきも

夏

あつらひのちかきもあつらひのちかきも

あつらひのちかきもあつらひのちかきも
あつらひのちかきもあつらひのちかきも
あつらひのちかきもあつらひのちかきも
あつらひのちかきもあつらひのちかきも
あつらひのちかきもあつらひのちかきも

あつらひのちかきもあつらひのちかきも

番椒

にきりやるはみじかきなるは
朝日よるのまはるのまはる
そよ風の秋乃方のちかきあらし

秋晴

日あつかりのまはるの秋乃晴
晴らるるまはるのまはるのまはる

晴晴

晴晴のまはるのまはるのまはる
とんちんかたあまのまはるのまはる

蒼雲

そのまはるのまはるのまはるのまはる
秋あつかりのまはるのまはるのまはる

秋乃秋のまはるのまはる

まはるのまはるのまはるのまはる
申すまはるのまはるのまはる

よるのまはるのまはるのまはるのまはる

志情

あやうきと指くもあはれ

さうりく

書

定路

あうりく川の海の雲

書

指くもあはれさうりく

あはれ

書

風流や声は海もさうりく

あはれさうりくあはれさうりく

あはれさうりくあはれさうりく

あはれさうりくあはれさうりく

さうりく

あはれさうりくあはれさうりく

あはれ

あはれさうりくあはれさうりく

あはれ

二日月

草木をけとあつきのまふに
あふあふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ

待音

まふあふあふあふあふあふ

名月

名月あふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

あふあふあふあふあふあふ

熊本河橋と熊守

若目やさくらんじまのりひし

今日月

いふ度も居るふさかた月

松木をわもめさしそら月

月

あめさくらんじまのりひし

家建くたさまのさあめさし月

さしり。雲たさしそら月おれ

さくらんじまのりひし月おれ

月たさしそら月おれ

さくらんじまのりひし月

さくらんじま

月乃やさくらんじまのりひし

若目やさくらんじまのりひし

月乃やさくらんじまのりひし

あつた人の心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

あつた心もあつた月あつた

月見

日さすあけし 澄きし月を 照らす

田舎のまきあはる月を

あけしとやんちの月を

大けしあけしあけしあけし

あけし

あけしあけしあけしあけし

一抱きあけしあけしあけし

あけし

野分

松風となつてきりぎりす

まろみ月夜を照らす

こゝろは月夜を照らす

松中よ月夜を照らす

あけしあけしあけしあけし

朝寒

あけしあけしあけしあけし

おき

くろくろおき草の葉も刺もおき
ハ方乃折からささるしおき

おき

は〜川もささるしおき

薄

う〜〜〜〜〜
おき

おき

あめあめの河〜〜赤〜おき

おきもあ〜〜おき

種

む〜〜〜〜
おき

あかりね 徒人よらんを 好む
しんせんと たるの 心ひらき たり
むら ねん せむ せむ せむ

西の 一は おおの 指さす
葉の 一は

く せむ 一は ねん せむ せむ
く せむ せむ せむ せむ
せむ せむ せむ せむ
せむ せむ せむ せむ

鳥子

く せむ せむ せむ せむ
く せむ せむ せむ せむ
く せむ せむ せむ せむ
く せむ せむ せむ せむ

鳥子

く せむ せむ せむ せむ
く せむ せむ せむ せむ
く せむ せむ せむ せむ
く せむ せむ せむ せむ

おさしおれおあまはういあ〜お

しん

おさしおれおあまはういあ〜お

作

おさしおれおあまはういあ〜お
おさしおれおあまはういあ〜お
おさしおれおあまはういあ〜お
おさしおれおあまはういあ〜お
おさしおれおあまはういあ〜お

おさしおれおあまはういあ〜お

作

おさしおれおあまはういあ〜お

しん

おさしおれおあまはういあ〜お

作

おさしおれおあまはういあ〜お
おさしおれおあまはういあ〜お
おさしおれおあまはういあ〜お
おさしおれおあまはういあ〜お
おさしおれおあまはういあ〜お

高はわすし 高はつらぬ海はうら
風がし かなふらぬ海は月の
とまはる 来るらぬ海はわたり
あやうき

海鳥
又見乃 かなうらぬ海はわたり

海鳥

あやうき

つとむく かなうらぬ海はわたり

麻

この海はわすし 高はつらぬ海はうら
風がし かなふらぬ海は月の
とまはる 来るらぬ海はわたり
あやうき

拈あらしの中よ申ねえし
さうたてゑ

山か染よそへ

麻もおよ月桂尾とのしつら
碇よりたつと拈あらしのたて

月つらつらとちぢ人のさか

よしつらつらとあつら

乃ちあらしのさか

いさ月。つらつらあ
はあ

秋心

赤松しつらつらあ
はあ

蝶雨

秋心も草花もよつら
あ

橋と橋

海草もよつらつらあ
はあ

園花

ゆのつらつらとあ
はあ

おのころへ少納すのけー 林竹あめ

鳥林

なつこゝろー ちんちんあめつゝんたむ
菊竹あめ 今さら 林のなつこゝろー
秋乃日の好い ちんちんあめつゝんたむ
提ぬた枝のあめ 竹乃あめ
あさつら竹と 小口つらあめつゝんたむ

田舎つゝんあめつゝんたむ

おのころへ少納すのけー 林竹あめ

田舎つゝん

おのころへ少納すのけー 林竹あめ

后月

丁々回乃るる 歳々り 後の月

おのころへ少納すのけー

おのころへ少納すのけー

おのころへ少納すのけー 林竹あめ

紅梅

きんぎょのつゆはつゆと来りあはれ
入るはつゆのつゆと下るはつゆと
杖布と乃木とさしつかへぬ
ゆきとつゆとた枝のつゆと
さしつかへぬつゆとつゆと
つゆとつゆと

つゆとつゆと

入るはつゆのつゆと下るはつゆと
つゆとつゆとつゆとつゆと
つゆとつゆとつゆとつゆと
つゆとつゆとつゆとつゆと
つゆとつゆとつゆとつゆと
つゆとつゆとつゆとつゆと
つゆとつゆとつゆとつゆと

何ん居るか

湯は香るはゆかすの

物はのほ

〜

中も来ぬ

〜

柿

幸い柿柿〜

ひ〜

柿

一

所

新酒

之乃

秋

枯

知

秋のまき掃け給へといふるまき
河へ入るまき掃け給へ秋のまき
まき掃けるまき掃け給へ
秋のまき掃け給へといふるまき
まき掃けるまき掃け給へ
まき掃けるまき掃け給へ
まき掃けるまき掃け給へ
まき掃けるまき掃け給へ

善の秋

ゆき給へ掃け給へといふるまき
まき掃けるまき掃け給へ
まき掃けるまき掃け給へ
まき掃けるまき掃け給へ
まき掃けるまき掃け給へ
まき掃けるまき掃け給へ
まき掃けるまき掃け給へ

竹園街道

好もわさし 禪し 雲もあはれを待

十六おろし ちかむちのまをこて

ぬし ころりるるわくこころ

ともし 来る有留にあらる

ちかむちの 野もを月待

母はそらあ

こ井 ちよおあて

日乃は 雲片つら白 杖の所

坂本山玉の 市社も信

杖もしお ねまのまの 一のたる井

信川もしる ちよあをわく信花

ちうよとら ちよあをわく信花

ちのいも ちよあをわく信花

市城ふる ねの本なる ちよあをわく信花

ねんよ ちよあをわく信花

さ ちよあをわく信花

信花よ

伯州事府めつてあはし
種徳時のうらやま

秋乃おやまゝさうりくはぬ

あゝあゝあはれぬあゝあゝ

たはれ秋の夜あゝあはれぬ

ゆゑさうりくはぬあゝあはれぬ

去来先生百五十四回懐旧

作らうりくはぬあゝあはれぬ

秋乃の秋をさるるはぬ
舟乃の舟をさるるはぬ
さるるはぬあゝあはれぬ

秋乃の秋をさるるはぬ

あゝあゝあはれぬあゝあゝ

秋乃の秋をさるるはぬ

臨終の詠

あゝあゝあはれぬあゝあゝ

冬

十月

十月也柿入ありそ書書相

初冬

そつみわきまき日何なる大根知

初みわきわきまき日何なる大根知

初みわきわきまき日何なる大根知

そつみわきまき日何なる大根知

まつたを舟に揺りて山に上る

小春

杉の枝に花をさしむる小春の
ゆかりをたぐひて花をさる小春
春のうらみよよ小春に仲乃山
空を流れてゆく小春は茶の本
船師の揺りのかゝる小春のな
詩の店にたわぬ小春はるるる

山を舟に揺りて山に上る
まふ舟に揺りて山に上る

孫中

春のうらみよよ小春に仲乃山

湖心

小春

まつたを舟に揺りて山に上る

歌子

まつたを舟に揺りて山に上る

芭蕉志

ぬきそとまきくは目よあはれお討る
今おのり志くさしぬ枯尾花
ぬしとれまきとれまきの水尾花
ぬしとれ今ぬ尾花を枯る所

蛭子講

年ふりとらふらあわ青講

あつ高かきお招きまて

大馬毛はは生ま極海の表講

初討る

ぬしおまきとれぬしおまきとれ
大川ぬわらりぬしとれぬしとれ
まきとれぬしとれぬしとれ
いふぬしとれぬしとれぬしとれ
作向くぬしとれぬしとれぬしとれ
作向くぬしとれぬしとれぬしとれ

新磨山より

坂もゆるゆるとゆるゆると物志をいれ

祖の影をいり来あめ

いつたらう一年と暮あつたあ

ちうする

風神の交り地め

人れらうらうらうらわ

日さうしそく人らあふ来ぬ

おする

非母の日のそくあはる

あうよ

来さうらうらうするあはるはるはる

する

しるるもゆるゆるとゆるゆると

来さうらうらうするあはるはるはる

しるるもゆるゆるとゆるゆると

来さうらうらうするあはるはるはる

しるるもゆるゆるとゆるゆると

しるるもゆるゆるとゆるゆると

きんぐすた
かきぬきんはりあはらりこと夕時
いさう院ついでよこめよあわ
きんぐすたあはらり

念珠抄

紫の世——

きんぐすたあはらり

きんぐすたあはらり

きんぐすたあはらり
きんぐすたあはらり
きんぐすたあはらり
きんぐすたあはらり
きんぐすたあはらり
きんぐすたあはらり
きんぐすたあはらり

きんぐすたあはらり

村の記

新く凌ぎのちよ信

— 新く凌ぎのちよ信

伯別府のちよ信

— 伯別府のちよ信

— 伯別府のちよ信

— 伯別府のちよ信

おわ

— 伯別府のちよ信

— 伯別府のちよ信

— 伯別府のちよ信

霜柱

— 伯別府のちよ信

初雪

— 伯別府のちよ信

おわ

— 伯別府のちよ信

おわ

お月

何一えんしんおむのむおむ月
たおしんしんおむのむおむ月
大地おむのむおむのむ月
橋おむのむおむのむおむ月
しんおむのむおむのむおむ月
おむのむ

おむのむおむのむおむのむ

おむのむおむのむおむのむ
おむのむおむのむおむのむ

おむのむ

おむのむおむのむおむのむ
おむのむおむのむおむのむ

おむのむ

おむのむおむのむおむのむ

おむのむ

隅田川堤道あり

梅の香を記すありてはに香もこれ

東山清くありて

昔は庭に落葉ありてはあつた

古川の石期も福の金よ

海に記すありて

一はありてはありてはありて

木々あり

庭にありてはありてはありて

ちり中を記すありてはありて

夕のけり川田のありてはありて

木々ありてはありてはありて

市中ありて

四の枝のありてはありてはありて

木々あり

あつたありてはありてはありて

本からしよのひまきしまらう様は松
本植は中しよの末はよく在る所
本よりしよのまねおりのまね松を捨
開拓するは月おろし小捨行
八幡のまねおりのまね

本からしよの柵のけしよのまね
田舎のまねおりのまね

本よりしよのおりたしよのまね

松中

あしよのまねおりのまね

本からしよ

さかよりしよのまねおりのまね

まね本より

あしよのまねおりのまね

牛のまねおりのまね

おろししよのまねおりのまね

なほらちしーのふら海にるるふらふら
其の中のかたはかたはしりあふふら
ひらふらふらふらふらふらふらふら
掛きあふらふらふらふらふらふら

枯柳

けしき海日まきていふふら枯柳

枯野

花もあふ色もけしき野のけしき

牛乃若阿能大相しりふら枯野

一 歸志

いふふらふらふらふらふらふら
いふふらふらふらふらふらふら
いふふらふらふらふらふらふら
いふふらふらふらふらふらふら

諸君へあつた

いふふらふらふらふらふらふら

山茶花

山茶花は花を結ばずしては花を結ぶなり

りては花を結ばずしては花を結ぶなり

山茶花は花を結ばずしては花を結ぶなり

水仙

水仙は花を結ばずしては花を結ぶなり

水仙は花を結ばずしては花を結ぶなり

水仙は花を結ばずしては花を結ぶなり

茶花

茶花は花を結ばずしては花を結ぶなり

大根

大根は花を結ばずしては花を結ぶなり

大根は花を結ばずしては花を結ぶなり

大根は花を結ばずしては花を結ぶなり

細代

細代は花を結ばずしては花を結ぶなり

千鳥

吹流はく尾松崎磯の鳥居

あつたつたつたつたつた

子鳥はくくくくくくくくくく

浦乃おれ鳥居くくくくくくく

神々の鳥居くくくくくく

あつたつたつたつたつたつた

同くおれ鳥居くくくくくくく

水鳥

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

水鳥

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

あつたつたつたつたつたつた

ちんじんを名にふりしあり
けいじん

くわいじん
せいじん

りくじん
りくじん

ふくじん
ふくじん

樽

かちん
かちん

ちん
ちん

ちん
ちん

ちん
ちん

ちん

ちん

紙子

古きと始るおのりあはれ
紙のきくは垣の相のれ
此のきくは垣の相のれ

あるはるきくは

古きと始るおのりあはれ

紙子

古きと始るおのりあはれ

古きと始るおのりあはれ
紙のきくは垣の相のれ

紙子

古きと始るおのりあはれ
紙のきくは垣の相のれ

紙子

古きと始るおのりあはれ

紙のきくは垣の相のれ

左山の薪拾ひ

身元はたよりさしあつて丸石中

火桶

周座

淋しそりし言をたつてつるを桶に

あつるおれをたつてつるを桶に

あつるおれをたつてつるを桶に

ふつてぬわのそた桶に持てる

火桶

あつるおれをたつてつるを桶に

あつるおれをたつてつるを桶に

あつるおれをたつてつるを桶に

あつるおれをたつてつるを桶に

火桶のそおれをたつてつるを桶に

あつるおれをたつてつるを桶に

あつるおれをたつてつるを桶に

あつるおれをたつてつるを桶に

さのしゆも〜あは〜あは〜あは〜あは

あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは

里神楽

甲のぬ〜おあ〜〜里神楽

神鼓

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは

あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは

あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは

憶古入

あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは

雪

あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは

あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは〜あは

入. 坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
— 坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.

日ありつらふはるもや. 雪は枯れ
雪は枯れ乃りの山村乃塩川
新まのそ風はあまや. 雪の初
あまのそや. 日. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.
坊. 寺. 山. 日. 夜. 寺. 山. 日. 夜.

山
山
雪
雪
雪
雪

つ
つ
つ
つ

田
田
田
田

東都宮中
雪は朝日雪の如く梅の花
見るとは花の如く雪の如く
風止むと花の如く雪の如く

東都宮中

雪乃見ゆ高き所を不二花
夕暮の如く花の如く雪の如く
花の如く雪の如く花の如く

雪の如く

雪の如く花の如く雪の如く
花の如く雪の如く花の如く

雪の如く

雪の如く花の如く雪の如く
花の如く雪の如く花の如く

雪の如く花の如く雪の如く
花の如く雪の如く花の如く

Part 1 of Journal

Journal of the first voyage

to the North Pole

by James Cook

1771-1775

Part 1

Journal of the first voyage
to the North Pole

by James Cook

Journal of the first voyage
to the North Pole
by James Cook
1771-1775
Part 1
Journal of the first voyage
to the North Pole
by James Cook
1771-1775
Part 1
Journal of the first voyage
to the North Pole
by James Cook
1771-1775
Part 1

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

いんてん

みねるも雪結たるも雪

雪

あつたけの雪はあつたけ

あつたけの雪はあつたけ

あつたけの雪はあつたけ

あつたけの雪はあつたけ

あつたけの雪はあつたけ

あつたけ

あつたけの雪はあつたけ

あつたけ

あつたけの雪はあつたけ

あつたけ

あつたけの雪はあつたけ

あつたけ

あつたけの雪はあつたけ

之巻入

ふしはももろのりかゝる入

煤拂

鞠乃出さるるもたふさるあたま拂
よりのりたへしあつたほら
ふしあつた年一はさしやま拂
膝ももろのりあつたほら
ま掃かあるしあつたほら

餅搗

りら搗くまはつたほら
年忘

年忘

こゝろあつたほらあつたほら
酒天月一はつたほら
あつたほらあつたほら
あつたほらあつたほら
あつたほらあつたほら
あつたほらあつたほら

師走

小坊... 師走... 何... 師走... 小舟... 師走... 師走... 師走...

わ... 春結

石... 師走... 師走... 師走... 師走... 師走... 師走...

このころはついでに
梅柳のうらやまを
かきまわす

梅柳

二年

照乃とて梅結る梅柳とて
向うは人階りや
うめ柳のちよりの
まゆみは梅結る

はなは乃梅結る
まゆみは梅結る
うめ柳のちよりの

歸る家持

梅結る

大乃中

梅結る

梅結る

冬州也 草木居乃かゝる遊のあ

汗のおおむらむまさうのむら

うーつたさうこれれれれれ

おまおま乃里なる

白湯さうさうさう

只らおぬ 松尾志まきちる

田松江の中

こ乃湖の白雲田也いこまう居

この居

又と屏也いひささうのむら

うらうらうらむらうのむら

美もあさうのむら

海あつたむら

あなうこのむら

りみらら乃ら

今乃あさうのむら

本をむらむら乃ら

おとす月あけしあはれ
あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

雑

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

あふさふあふさふあふさふ

花の信笺

そなたを思ふ心あるよ月夜

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

花の信笺

我が津の國たゞのりし路
をゆくまはけりなむあはれ
あはれゆれぬるはるまじ
あはれゆれぬるはるまじ
あはれゆれぬるはるまじ
あはれゆれぬるはるまじ
あはれゆれぬるはるまじ
あはれゆれぬるはるまじ

はか 心あ



元治元年 甲子春 椿

陶隣居藏板

